

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2670700349		
法人名	ユニマツリタイアメントコミュニティ		
事業所名	嵯峨野ケアセンターそよ風 1F		
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1		
自己評価作成日	平成28年12月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2670700349-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2670700349-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成29年1月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当センターは京都嵐山からやや来たにあがった、自然に囲まれた風情のある静かな地域に位置しています。職員は利用者様がゆっくりと穏やかに過ごせるよう、その人の持っておられる能力を考慮し、手助けを必要とする部分を支援することを心がけています。また、五山の送り火鑑賞会、嵯峨祭の見学、京都マラソン見学といった季節にあったイベントから、定期開催のバイオリン演奏会やハーモニカ・ウクレレコンサート、音楽療法といった数々のイベントがセンターで過ごされる利用者様の日常生活に楽しみをプラスしており、職員も共に楽しんでいます。センターの理念である、「穏やかで安らぎのある暮らし、心遣いや気配りのある生活、ゆったりと自由な時間、地域と生きる私たち」という理念を大切に、利用者様の生活のお手伝いをしていきたいです。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当施設は愛宕山のみもと、緑に囲まれた嵯峨という風情ある観光地に位置しています。施設から五山の送り火の一つである鳥居をまじかに見ることができ、開設当初から家族交流会を目的とした鑑賞会を催し、同時に家族研修会も実施しています。各ユニットごとに調理師免許を持った職員が勤務していることも踏まえ食事に重きを置き、料理を味だけでなく見た目でも楽しんでいただくことで、食欲へとつながるよう支援しています。更に入居者のできることを大切に、毎日職員と共に掃除や食事の準備など協働して行うことで自立に向けた支援を実施しています。又、地域交流を大切にしており敬老交流会や嵯峨祭りなど地域からの声かけで参加しています。ヒアリング報告時は気づきだけで終わらせないために会議で検討、意見交換を行った上でケアプランに落とし込む仕組みが整っています。コミュニケーションを大切に、得た情報を細かく申し送りノートに記録することで情報が共有でき、チームとして24時間切れ目のない支援を提供していることが職員ヒアリングからも確認できました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時にセンター長、各ユニットの出勤者で、会社の理念、センター独自の理念を唱和し、理念の確認と共有化を行っています。利用者様が穏やかに過ごせるようにどのような援助を行っていくべきかという事を常に考えるようにしています。	会社や事業所独自の理念を掲示し、毎朝朝礼で唱和することで理念を共有し実践に繋がっています。職員は「利用者様本位」の理念をもとに、毎日入居者とのコミュニケーションを大切にし、思いの把握に努めながら、24時間切れ目のない支援を提供しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加、地域の保健委員を10年以上続けています。地域とのつながりの中で、地域の敬老会やお祭りなどのイベントにもお誘いをいただいています。また、センターよりは新聞を発行し、地域の方に回覧を行っています。	地域の保健委員を毎年担当しており、小学校で行われる献血活動や委員会の集まりに参加するなど、地域住民とは顔の見える関係を築いています。更に偶数月に「そよ風便り」という広報誌を発行し、回覧することで事業所の取り組みを発信、地域からは祭りやカフェへのお誘いを受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2か月に一度開催し、地域の方の参加をいただいています。また、地域包括開催の地域ケア会議への参加、認知症の勉強会へのお手伝いなどもおこなっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、入居者様の平均年齢や介護度、イベントの様子(新聞)、事故の報告等様々な報告を行っています。また、議事録を家族様に送付、あがってきた意見を共有化することでサービスの向上につなげています。	偶数月に開催し、自治会、民生、社協会長、地域包括が参加しています。年2~3回の参加でという家族要望を受け、家族参加時には研修会や食事会の機会を設け、意見交換がしやすいよう取り組んでいます。更に広報誌を活用して実践状況を報告し、あがってきた意見を運営に反映しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議、区のケアマネ連絡会やサービス事業者連絡会等、地域の会合に積極的に参加し、協力関係の構築に日々努めています。事故の報告書もできるだけ手渡して提出しています。	報告書類や運営推進会議議事録、広報誌を行政の窓口へ直接届けています。行政や地域包括主催の研修会や地域ケア会議に積極的に参加することで、協力関係が築けるよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上玄関の扉はオートロックとなっておりますが、その他は身体拘束を行わないケアを実践しており、身体拘束を行っている利用者様はおられません。家族様より、要望がありましても、お断りし、代用案をともに考えます。また、スピーチロックについても注意しております。	マニュアルが策定され、研修を行い報告書を提出することで周知しています。更に「身体拘束廃止・虐待防止委員会」を設置することで身体拘束を行わないケアを実施しています。玄関は防犯上施錠していますが、1階から3階まではエレベーターで自由に行き来ができることで交流を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員に向け、身体拘束をしないケア、虐待の防止についての研修を行うとともに、委員会を設け、定期的に話し合いを行い議事録を回覧し虐待の防止に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についてある程度理解している職員もいますが施設全体として十分に理解が広がっているとは言えない。後見人制度をご利用者様は複数名いらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約の際には利用者様や家族様に十分な時間をいただき、説明を行っています。その上でご理解、了承をいただけた場合、署名捺印をお願いしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度家族会やアンケートの実施により、家族様の意向をお聞きできるようにしています。センター長は常に昼間事務所にあり、日々の面会等、要望を直接お聞きできる機会として大切にしています。	入居者からは日常的に、家族からは手紙やアンケート、又面会時には職員と1対1で会話ができるよう配慮して要望を聞き取っています。日常の生活状況を知りたいとの要望で、写真を掲示し情報を詳しく伝え、更にはリビングで過ごしてほしいとの要望で、催しへの参加など声かけに努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度全体会議があり、センター長、管理者、職員が参加し、運営の報告や意見交換を行う時間としています。事務所にはセンター長が昼間出勤しており、定期的な面談の他、直接意見を伝える事もできます。	センター長は日常的に個人ヒアリングを実施しています。職員の提案でヒアリングや気づきの書式を簡素化し、事業所独自の「申し送りノート」に書き込んでいくことで情報を共有し、事故の予防や再発防止につなげています。更に、環境整備の面でも随時声を聞き取り運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は二十数名であり、代表者は各職員の努力、勤務状況など十分に把握することができます。その上で定期的に面談を行ったり、評価を行い、働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内外の研修案内が回覧されるなど、研修を受ける機会、設けられています。特に新入には新人研修やフォローアップ研修、入社一月での到達度チェックなど、手厚い取り組みを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他施設には会議や勉強会を通じ定期的に相互訪問しており、交流ができています。勉強家により、サービスの質の向上につながっています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、どのようなサービスを希望されているかおききし、施設が提供できるサービスについても説明、信頼関係の構築と満足いただけるサービスの提供に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や問い合わせをいただいた時点より、家族様の意見、要望をお聞きするとともに、施設ができること、できないことについても十分説明し、信頼関係をある程度築いた上でサービスを開始できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居が決定する前段階でケアマネと相談したり、家族様、ご本人様と面談し、現状を把握したうえで施設が提供しているサービスの利用が適切かを総合的に検討しています。他のサービスの利用をお勧めする場合もあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	定期的にあセスメントを実施。ご利用者様がご自分の力を使っただけよう、援助を行っています。ご利用者様同士が共同生活をされており、職員はその補助を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前の相談時より、利用者様を支えるにあたって入居後も家族様の協力を必要とするという事について、説明を行い、ご理解をお願いしています。毎日、食事介助に来てくださるご家族様もあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の方等が面会に来て下さった際には、利用者様と一緒に気持ち良く過ごして頂けるよう配慮を行い、また来て下さりやすいよう雰囲気づくりをおこなっています。馴染みの喫茶店への外出支援を行っている方もあります。	アセスメント以外にもセンター方式の一部を抜粋して「その人となり」が把握できるよう努めています。家族の協力を得て馴染みの美容院や喫茶店に出向く、又職員が付き添い墓参りや選挙に出かけています。趣味の継続として法人主催の文化祭に書道作品を出品した方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者様同士の関係を十分把握しており、関係に支障がある場合には職員が配慮を行いながら、利用者の共同生活を援助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後もご家族様と連絡をとりつながりを大切にしています。お母さまが亡くなられた後もイベントのお手伝いをして下さるご家族様もおられます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様への日々の援助や、家族様との関わり等より、利用者様おひとりおひとりの思いや意向の把握に努めています。また、得られた情報については、申し送りノート等で職員間で共有しています。	3か月毎にアセスメントを実施、職員が日常的に寄り添い、コミュニケーションを大切にすることで本人の思いの把握に努めています。日常的に洗濯干しや洗濯物たたみ、掃除、食事の準備や片付けなど、本人のできることを尊重した自立に向けた支援を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様、本人様、ケアマネ等よりお話を聞き、サービス利用前より情報の取得に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス利用後は時間毎にどのように過ごされたか、血圧や体温、排泄状況等を記録し、利用者様の身体状況、生活状況等の把握を日々行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の様子から利用者様の状況を把握し、カンファレンスで話し合いを行い、介護計画の作成を行っています。	短期目標満了時の3か月毎にモニタリングを実施、再アセスメントを行うことで、更に本人の思いの把握に努めています。カンファレンスを生かした取り組みとして、日々の情報を細かく独自の「申し送りノート」に記録することで課題を抽出して、ケアプランに落とし込んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は各種記録や申し送りノートを活用し、情報の共有を行っています。心身の変化や入院等利用者様に変化があれば、その都度援助内容の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の日々の様子を把握、外出支援や病院の受診、レクリエーション、日常のケアなどお一人お一人に合わせた支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防や警察、学校、ご近所の皆さん、ボランティアの皆さんなど様々な方に協力いただきながら、利用者様が穏やかな日常を過ごせるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力病院の他、施設利用前のかかりつけ医を継続して利用されている方もあり、複数の病院と関係を築いています。日頃の様子が伝わるよう、別に情報提供書を作っている方もあります。	入居時に説明を行い協力病院へ変更、又かかりつけ医を継続される方もいます。訪問看護とは24時間連絡が取れ、緊急時には病院との連携も迅速に取れる体制が整っています。更に、協力歯科医院との連携も図るなど医療連携に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院の他に訪問看護ステーションとも連携とれており、気づいたことや相談したいことなど、用紙に記入し、もれなく相談できるようにしています。緊急の場合には、24時間体制で相談できる体制が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携の協力病院があり、そちらに入院の場合には今までの医療の経過が蓄積されており、本人、家族の要望を理解した医療が受けられるようになっています。また、職員がお見舞いに行き、経過の把握と早期退院に向けた対応行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針について、家族様に説明し、同意書をいただいています。また、病院、センター、家族様で話し合いを行い、終末期の医療行為についての書面を作成、提出しておられるご家族様もあります。	家族に説明を行い同意を得ています。又、重度化に向けてアンケート形式で家族に確認を行い、記録に残しています。職員に向けて看取り研修が行われ、昨年、家族向けにも看取りの研修を実施しました。協力病院も看取りに関して協力的で、24時間訪問看護を通して医療連携を図っています。	職員研修や家族に向けた研修会も開催されていますが、事業所でできることや急変されたときにどのように動くのかを明示しておくことが大切と思われます。更に、外部研修へ参加され、伝達研修を行うことで意識向上を図られてはいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備し、定期的に見直しを行っています。センター長、管理者、リーダーを中心に適切な対応ができるよう、日々実践対応をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や消防訓練を行っています。消防署の方についても、参加いただいています。	消防署の協力を得て、年2回(内1回は夜間想定)実施しています。避難場所までが遠いため、水害時は消防より3階に移動するよう指導があり、実際に訓練を実施、15分ほどで避難できることが確認できました。貯水槽があり、食料も少しは準備しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を人生の先輩として、常に尊厳をもった接し方になるよう、心がけています。研修により、職員全体への周知も行っています。	接遇マニュアルが策定され、研修が実施されています。研修報告書や感想文の提出で、更に職員周知がされています。コミュニケーションを大切にしており、特に言葉かけに配慮がされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合を押し付けるのではなく、利用者様を選ぶ主体となるよう、声かけにも注意しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は常日頃よりの見守りの中で、各利用者様の生活のペースを概ね把握しています。その上で利用者様の意向に沿った生活ができるよう、援助を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服をご自分で選んだり、化粧や髪の毛を整えたりとその方らしい、身だしなみができるよう、援助行っています。鑑や櫛を持っておられる方も多くおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いが可能なご利用者様には、盛り付けや味付け、食器をふいていただくなどしていただいておりますが、できる方は限られてしまっています。	冷蔵庫にある食材を確認して、入居者の意見を聞き取り毎日献立をアレンジしています。ユニットごとに入居者の嗜好を把握し、食事を見た目でも楽しんでいただけるよう、調理の仕方を工夫しています。又、入居者は準備や片付けなど自発的に行い、更に手作りおやつも楽しんでます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示に基づき、各人にあわせ水分量、栄養バランス等注意し食事を提供しています。また、水分量や食事の量は記録も行っていきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、夕食後に、各利用者様に合わせた口腔ケアを行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄について24時間記録する事でお一人お一人の傾向、把握しています。入院でオムツを利用者されていた方でも、退院後はリハビリパンツを着用していただき、適宜誘導するなど、排泄の自立支援、行っています。	支援経過表を活用して排泄・食事・バイタルの確認を行っています。退院後ベッド上でオムツ介助の方が声かけにより、車いすですぐトイレに行き排泄を行うようになり又、車いすの方が生活リハビリを行うことで、歩行器を押してトイレに行くことができ、更に綿パンツに変更となるなど自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の記録行っており、便秘傾向のある方には、水分量、乳製品、繊維質の食事等に注意し、自然排便となるよう援助行っています。その上で必要な方には、下剤の使用も医師の指示の下、行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴については、重度の方が多く、二人介助をひつようとする等の要因もあり、十分に利用者様の希望に沿うことができていませんがシャワーキャリーの整備等により、少しでも入浴していただけるよう、取組行っています。	週に2～3回午前・午後を問わず一人ひとりの意向を確認して個別に支援しています。入浴を拒まれる方には職員を変えたり、入浴剤を使用することで気分を変えていただくなど配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活のリズムについて、概ね職員が把握しており、各個人のその日の体調や表情等も考慮し、無理がない様、見守りや援助行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より、個人毎に服用している薬の説明をうけており、薬の目的や用法等、概ね理解できています。薬により不要と感じた場合には、医師への確認も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様のお好きな事、得意な事等、日々の生活の中から把握し、共有化を行っています。利用者様が持っておられる力を発揮できるよう職員はさりげなく援助を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の介護に追われ、各個人の希望に合わせた外出援助は出来ませんが、花見や紅葉等、季節折々で利用者様に楽しんで頂けるよう、何名かでドライブしたり外出支援行うよう努めています。	敷地内が広く数種類の木(みかん・レモン・イチジク等)があり、草花が咲いています。玄関にはいつでも散歩に出かけられるようにと帽子を置いています。家族の協力を得て外食や銭湯に出かけたり、又馴染みの美容院へ出向いています。外出が難しい時は玄関前のベンチで外気浴を楽しみながら歌を歌うなど、心地よく過ごせるよう支援しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様に財布を持っていただき、お金を使って頂く機会、日常でほとんど作ることができていません。地域の清涼寺のお祭りの際には、屋台で買い物される支援、行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり、手紙を出される支援、利用者様に合わせ、行っています。本人は手紙を出したくても、家族様が断られる場合もありました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設はフローリングやテーブルなど洋風のつくりで瓦屋根や格子戸、障子など和風テイストを盛り込んだ落ち着いた造りになっています。壁には季節の飾りや利用者様の作品、イベントの写真等もはり、生活感があるように工夫しています。	緑が多い環境の中、各居室やリビングは窓が大きく、自然の採光を取り入れ窓から見える風景も満喫できる造りとなっています。入居者の手作り作品や書道や絵画など趣味の作品、行事ごとの写真を掲示することで、入居者同士の会話が広がるよう配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファを工夫して配置し、少人数でゆっくりしたり、独りになったりもできるようにしています。イベントにより、配置を変更したりもしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居説明時より、施設の部屋は利用者様の私室である事を伝え、出来るだけ使い慣れた馴染みのある家具をお持ちいただき雰囲気づくりをくださるよう、お願いしています。職員も安全面等アドバイスを行っています。	家族の協力を得て馴染みの調度品を持ち込んでいただくことで、少しでも自宅に近づけられるよう配慮しています。重度化した入居者が多いため家族と話し合い、自室にセンサーを設置し、入居者がナースコールとして活用することで、安全面でも配慮する取り組みが行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様に分かりやすい様、トイレやお部屋に案内をつけています。また、手すりは随所に設置されており、一部増設するなど、利用者様がより使いやすい様、工夫を行っています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2670700349		
法人名	ユニマツリタイアメントコミュニティ		
事業所名	嵯峨野ケアセンターそよ風 2F		
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1		
自己評価作成日	平成28年12月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2670700349-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2670700349-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成29年1月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当センターは京都嵐山からやや北にあがった、自然に囲まれた風情のある静かな地域に位置しています。利用者様がゆっくりと穏やかに過ごせるよう、その人の持つおられる能力を考慮し、手助けを必要とする部分を支援することを心がけています。また、清涼寺で行われるお松明、五山の送り火鑑賞会、嵯峨祭の見学、京都マラソン見学といった季節にあったイベントから、定期開催のバイオリン演奏会やハーモニカ・ウクレレコンサート、音楽療法といった数々のイベントがセンターで過ごされる利用者様の日常生活に楽しみをプラスしており、職員も共に楽しんでます。理念である「穏やかで安らぎのある暮らし」「心遣いや気配りの生活」「ゆったりと自由な時間」「地域と生きる私たち」ことを恥じないように支援していきたいです。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1階と同じ

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に、会社とセンターの理念を唱和しています。	1階と同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会・お祭りなどにお誘いをいただいております。センターでの催しや生活などを掲載した、そよ風新聞を回覧してセンターでの様子などを知っていただいております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二ヶ月に一回開催している運営推進で、地域の方にも参加していただいております。その中でも、認知症の方に対する理解に努め、地域の方との繋がりも出来るように支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	センター内の報告、家族様へのアンケート・外部評価の結果を報告して意見交換を行い、さまざまな意見を取り組んでサービス向上に繋げています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の会合に参加をして、協力関係の構築に努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上玄関の扉はオートロックとなっております。車椅子のベルトや4点柵などの、身体拘束を行っている利用者様はおられません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・高齢者虐待防止の会議を毎月行っている。関連する記事や事柄もあれば回覧をして、重大性として認識してもらい防止に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を実際に利用している方がおられなく、センターでも後見制度についての研修なども実施が出来てなく理解としては不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、改定等の場合には、時間をいただき、説明を行っています。その上でご理解、了承のうえ、署名捺印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度家族会を実施しています。意見箱の設置、アンケートも実施。家族様の意向をお聞きできるようにしています。日頃より、ご家族様としっかりとコミュニケーションを図り、要望等をくみ取るようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度全体会議があり、そこで運営の報告や意見交換を行う時間として設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に法り整備されている。定期的に面談を行ったりして、働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内外の研修を受ける機会を設けられています。全体会議で1つのテーマを決め、研修を行っています。ユニットでは、OJTを模範としてスキルアップを図り、自己啓発の意味でも研修参加を呼びかけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会など、他事業所との交流を深められ意見交換が出来ている。参考にしてサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実調面談を行い、ご本人様とお会いし、馴染みの関係になれるように話を傾聴し、信頼関係を築き安心していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様や利用者様の困っていること、不安に思っておられることなどを伺い、解決出来るようにして信頼関係を築いていけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、家族様の意向を尊重して、しっかりと把握、理解して最も必要とし、安心出来るサービスを提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はしていただき、出来ないところは一緒にさせていただいたりして、日々の関わりを大切に支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	センターでの催しがあれば、家族様に声をかけ参加協力を依頼し、また面会時に、いろいろと話す機会もあるので、その時間も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご親戚、ご友人の方が、面会の際には居室やリビングにてゆったりとした時間を過ごしていただくように雰囲気作りも心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、職員間で意見を共有しながら利用者様同士が楽しく生活できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、そよ風のイベントなどにお誘いしたり、関係を継続できるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者様との関係を作り、職員間で話し合い「その人らしさ」にあった、暮らし方や希望を考えて支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様からお話をお聞きしたり、家族様からの情報などをお聞きして、情報収集して把握し職員間でも共有して少しでも慣れ親しんだ、生活を送っていただけるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	些細なことでも、申し送りノートや経過記録に記載し、職員全員が把握出来るように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中から、情報収集を得てカンファレンスを行い、必要に応じては家族様にも参加を呼びかけたりして介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や申し送りノートの情報、職員がその都度感じたことなどを聞いて情報共有し見直しを行い介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	センターのサービスだけにとらわれず、柔軟な対応を行いサービスの向上に繋げている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のネットワークを活用して、ご協力をいただきながら安心出来るような生活を支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院と連携し、受診できる環境は整っている。かかりつけ医を希望されている方は受診を継続できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院の他に訪問看護ステーションとも連携がとれており、24時間相談できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院と連絡を密に取って、情報交換を行っている。職員の方でも、お見舞いなどに行き情報収集を行い、早期退院に向けた取り組みも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた取り組み、説明を行っている。家族様によって同意している家族様もおられる。その方には提携病院の担当医、職員も交えて終末期に向けた方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を通じて実践力を身につけるように努めているが、全員が対応出来るとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や消防訓練を行っている。近年の自然災害の喚起に伴い、ハザードマップを作成。活用して認識を高めていけるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人に対して、常にその意思と尊厳を大切にし、敬意ある対応に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が、自己決定出来る場面を提供出来るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースに合わせるのではなく、個々に合ったペースに合わせて、気持ちを考えて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、出張美容室に来ていただいている。服を選ぶ楽しみや、その人らしい身だしなみやおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年々、ご一緒にしていただけることが難しくなってきたので、食事を楽しんでいただけるように、季節や行事に合った、旬の食材やメニューを提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の栄養摂取量を把握している。水分、食事摂取量を記録して、身体状況に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、入床前に個々に合わせて行っているが、できない時もある。月2回の歯科往診を受け、助言などをいただきながら清潔保持をしている。義歯の定期的な洗浄も配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録することで、排泄のリズムを把握している。パターンを把握し排泄誘導を行いトイレでの排泄に努め、自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事、ヨーグルトを摂取していただいたり水分量にも配慮し、運動などを取り入れ便秘にならないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は日中に限られているが、ご利用者様の意見や習慣を大事にし、健康状況に合わせた入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活状況を把握し、体調などに考慮し自由に休息をしていただいている。日中は適度な運動を促し、安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で薬剤情報を回覧し理解している。利用者様の日々の行動や病状の変化については情報共有し、医師や看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション、散歩、会話、個々の趣味などを活かし張り合いや喜びのある生活を支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・ドライブなどにお誘いしたり、無理な方は、外気浴などして外の景色や雰囲気を楽しんでいただいているが、利用者様のADLが下がってきておられ、なかなか外出の支援が難しくなっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様に直接、財布を持ってお金を使っていたり機会はないが、職員と一緒に買い物などをしてお金を使う支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、時間帯や本人の状態を考慮して支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がある飾り付けや、生け花を置いたり香りなども取り入れ、環境に準じて快適に暮らせるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士を、一緒に席に座っていただいたりソファを設置したり、工夫をしている。共有空間では時々席替えなどを行い、快適に過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ物や家具をもっていただいている。利用者様が安心して居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになった建物になっている。文字や絵で場所を表示したり、簡単な案内を作成し自立した生活が送れるように支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2670700349		
法人名	(株)ユニマツ・リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	嵯峨野ケアセンターそよ風 3F		
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1		
自己評価作成日	平成28年12月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2670700349-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2670700349-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成29年1月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当センターは京都嵐山からやや北にあがった、自然に囲まれた風情のある静かな地域に位置しています。利用者様がゆっくりと穏やかに過ごせるよう、その人の持つおられる能力を考慮し、手助けを必要とする部分を支援することを心がけています。また、清涼寺で行われるお松明、五山の送り火鑑賞会、嵯峨祭の見学、京都マラソン見学といった季節にあったイベントから、定期開催のバイオリン演奏会やハーモニカ・ウクレレコンサート、音楽療法といった数々のイベントがセンターで過ごされる利用者様の日常生活に楽しみをプラスしており、職員も共に楽しんでます。インフルエンザ、ノロウィルスへの感染症への注意喚起にも力を入れています。センターの理念である、「穏やかで安らぎのある暮らし、心遣いや気配りのある生活、ゆったりと自由な時間、地域と生きる私たち」という理念を大切に

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1階と同じ

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて毎朝、会社理念及び事業所理念を唱和し、共有している。	1階と同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加をしている。隔月でそよ風便りを発行し、地域の方への周知に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会で事業所であった事例や、認知症ケアについて話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設行事、事故や課題を報告し、地域の方の意見も伺いサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加したり、役所に事故の報告書を直接届けたり、ケアマネ連絡階に参加したりして、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を目的とした行為はしていない。玄関は防犯上オートロックとしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で学ぶ機会を設けている。互いに注意し合えるよう、職員同士の関係を良くし、風通しの良い雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議で学ぶ機会を設けている。まだ十分とは言えないため、さらに職員の知識を増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時に面談をし、不安や疑問点なども伺い説明をさせて頂き、理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートに加え家族会の開催も増やすことでご家族が意見を表せる機会を増やしている。また、面会時のご意見を職員・管理者で共有し、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター内では毎月の全体会議や日々の業務の合間に、よく意見交換がなされており、全体に通じる提案などは全体会議で議題にしている。センターと会社は事業部を経て相互に意見話し合いをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員補充など職場環境の整備に向けて努力している。会社としてもリフレッシュ休暇を導入し環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けているが全員が対象ではないので、事業所独自で全体会議の場でも研修を行っている。他、ユニット内でチームとして新人を育てていく環境を整えたり、個人的にも研修に参加できるように案内している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者研修やグループホーム協議会を開き、各事業所間での研修・意見交換の機会が増えた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実調面談にてご本人とお会いし、思いに耳を傾けている。入居後もご本人からよくお話をお聞きし少しでも不安を和らげるよう職員間で情報を共有しご本人の安心に繋げるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に実調面談を行い、要望等を伺いお応えできるようにしている。入居後も要望等は常に聞きだすようにしている。言葉で頂かなくても、どう思っておられるか、何か不安なことはないか、察するようにして、良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を検討された経緯、何が一番困っているのか、何が一番不安なのか、等を聞き取り、最善の支援ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に家事をしたり、一緒にお茶を頂いたり会話したりしながら、一日を過ごして頂いている。できることはして頂いて、できるだけ自分で決められるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さな事であってもご本人の様子や変化をお伝えし、認知症についての助言もしている。文化祭やイベントにお招きし、実際にご本人のそよ風での姿・表情を見て頂いて、信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙やお届け物などがあった際にはお礼の電話で直接お話できるよう支援している。ご家族やご友人など来訪された時には居室やリビングでゆっくりとお話して頂けるよう心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の会話によく耳を傾け、関係を把握し、個々の性格を見極め、職員で意見を共有し、利用者様それぞれが本人らしさが出せるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状のやりとり等、関係が続いているご家族もいる。また、退居後であってもイベントをお手伝い等参加して下さるご家族もおられる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に把握に努めている。ご自身で思いを表すことが困難な場合が少なくないが、利用者様の様子や発せられた言葉などを記録に残し、カンファレンスで本人本位の視点から職員で話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居後ともに、ご本人やご家族や以前の施設等から情報収集をし、また、入居後もご本人からお聞きしたことを職員間で共有し、ご本人らしい生活をして頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の一人ひとりの様子を、申し送りノートや個別の経過記録へ記載したり、口頭で申し送ったりすることで職員全員が把握できるようにしている。また、気になったことは「気づき」としてノートや口頭で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際に、職員でカンファレンスを行い、ご本人のしたい事は何か、その為に何を支援すべきか、ご家族の意向も含め話し合っている。今後はご家族のカンファレンスの参加機会を増やせるよう取り組みたい。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や対応を記録し申し送り、情報共有している。職員は、気づきがあった時にその場の職員同士話し合いケアの工夫をしており、その方にとってのよりよいケアの実践と見直しを日々行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の業務フロー・ケアプランは決まっているがその日によって利用者様の状態が異なることも多いので、職員がその場で判断し臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのイベントへの参加、地域の他施設の利用、地域の店で買い物など、地域で楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院と連携し、受診できる環境を整えている。かかりつけ医を希望されている方は受診を継続できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院の往診(隔週)や訪問看護(週1回)の際に随時相談し、指示を頂き対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院やご家族と連絡を取り情報交換を行っている。また退院後も病院側からサマリーを頂き、退院後の生活に支障のないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や早い段階からご家族に終末期について考えて頂くよう促したり話し合いの場を設けたりしている。また、提携病院とも話し合いの場を設け、医師、看護師、ご家族、場合によっては職員も含めて終末期のケア方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議で学ぶ機会があるが、不十分と言える。訓練を行うなど、実践力が身につくよう考えてきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行っており、消防署の方にも来て頂いている。シフトの都合一度に全職員が参加できないため、身につけるために回数を増やしてほしいという意見もあり、考えていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、接遇マナーについて全体で勉強会をしたり、チェックリストにて自己点検、それをユニット会議で確認し合ったりすることで共通意識を高めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方その方に応じて、決めていただく、選んでいただく、こちらが察知する、などして支援している。その方の表情などをよく観察して思いに添えているのか考えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様お一人おひとりによって、またその日その時によっても、どのように過ごされたいか異なることを職員全員が理解し、希望にそった支援をするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝及び外出時の服選び、イベント時等に化粧、整髪など支援している。月に一回訪問美容にて、ご本人のご希望に応じ、パーマ、カット、毛染めなどして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや特徴など職員が把握しており、食べやすいような提供方法の工夫、季節を感じられる食材を取り入れる工夫などしている。できる方には盛付や配膳、片付けなどほぼ毎日して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や形態など一人ひとりに対応した提供方法をとっている。食事や水分が入りにくい場合は、お好きな物や摂りやすい物を一人ひとりの特徴に合わせて提供して栄養が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後と夕食後は全員行って頂けるように支援している。日中は口腔内に食べ物が溜まりやすい方などはその時々に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分と排泄のインアウトチェック表をつけてリズムを把握することで、適切なタイミングでのトイレ誘導やパット交換を行い、自立支援やパットの不快感の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ食事(便秘の方にはヨーグルト・牛乳・納豆・繊維食材を積極的に摂っている)や運動にて対応、次いで主治医に相談し内服での対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お一人あたり週2回程、時間帯は午後に設定させて頂いているが、その中では時間の制限はせず、ゆっくりくつろいで頂けるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分で入床・起床できる方についてはご本人の意思に合わせている。ご自分で表現できない方については表情や歩き方からのサインを読み取り、お疲れの時は休んで頂くなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を読み目的や副作用、用法や用量などについてよく認識するよう努めている。服薬時は十分な注意を払い、間違えないよう、日付や利用者様名を声に出して確認している。服薬後の様子は往診にて随時報告・確認できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	文化祭などで利用者様を主役とした発表会を行ったりすることで、それに向けた練習で張り切っておられる姿があったりと、生き生きとした姿を引き出せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や外気浴をしているが、遠出や個別ではなかなか出かけられていない。ご家族と連携がうまく取れ、ご家族の支援で長めの散歩やドライブにお連れできた方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理している。施設のイベントや近所のお祭や個別レクなどで買い物する時にはご自分で買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	やりとりをされる際には電話の隣で見守りしたり年賀状の返事を書かれたりする際の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をテーブルに飾ったり、季節の果物を収穫したり、各居室の表札に月替わりで変化をつけたりして、季節感を感じて頂けるようにしている。一人ひとりの生活に合った動線の確保や家具の配置なども工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファでゆっくりされたり、仲の良い方同士でおしゃべりされたり、基本、皆様思い思いの場所でくつろいでおられる。必要な場合は、職員がフォローに入り、一人ひとりの居場所づくりの支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っておられた家具を継続して使っておられたり、思い出の品など飾っておられたり、馴染みのものを持ち込んで居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今日の日付、今月の行事予定、場所の案内などを表示することでご自分で日付などを確認できる支援ができています。館内はバリアフリーで、引き戸になっており、安全に自立支援ができるようにしている。		